

「女子教育と女性の地位向上」に命をかけた熊本の女性たち

～竹崎順子・矢嶋楫子の生涯～

講師：齊藤輝代

竹崎順子 (1825～1905) 文政8年10月25日、矢嶋家3女として益城町杉堂に生まれる。



開新高等学校所蔵

玉名伊倉の竹崎律次郎に嫁ぐ。律次郎は事業失敗後、横井小楠の実学を学び、横島新地(玉名市)の開拓、肥後藩庁書記官として出仕。後に家塾「日新堂」を創設した。順子は夫を献身的に支えた。律次郎の死後明治20(1887)年キリスト教徒となる。明治22年「熊本女学校」の舎監となる。明治30年校長となり、明治38年81歳で没するまで校長として多くの女性たちを世に送り出した。「校母」として尊敬されている。

矢嶋楫子 (1833～1925) 天保4年4月24日、矢嶋家6女として益城町宮園に生まれる。



女子学院所蔵

益城町小谷の林七郎に嫁いだが、10年後の明治元(1868)年離婚。明治5年、兄源助の看病のために上京し、「楫子」と改名。東京で小学校教員伝習所に学び、教師となる。米国宣教師ミセス・ツルーと出会い、明治12年キリスト教徒となる。明治19年「東京基督教婦人矯風会」初代会頭となり、「一夫一婦制」「禁酒運動」等に取り組む。明治23年、東京の女子学院初代学院長となる。現在も名門校として有能な人材を輩出。同26年、「日本基督教婦人矯風会」初代会頭となり「婦人参政権」「廢娼」運動等に尽力。大正10年88歳でワシントン平和会議に出席し米大統領に会う。

大正14(1925)年、92歳で没するまで女性の地位向上のために働いた。従五位勳五等に叙される。

* * *

講演内容

1、 矢嶋忠左衛門直明・楫子夫婦と一男七女

2、 竹崎順子の生涯

- ・結婚と夫への献身
- ・熊本の女子教育への思い
- ・熊本女学校校長として
- ・卒業生への遺言

3、 矢嶋楫子の生涯

- ・勝子から楫子へ～自立への決意
- ・二足のわらじを履く～教師として基督教婦人矯風会会頭として
- ・世界平和への祈りの旅
- ・後輩に渡されたバトン

